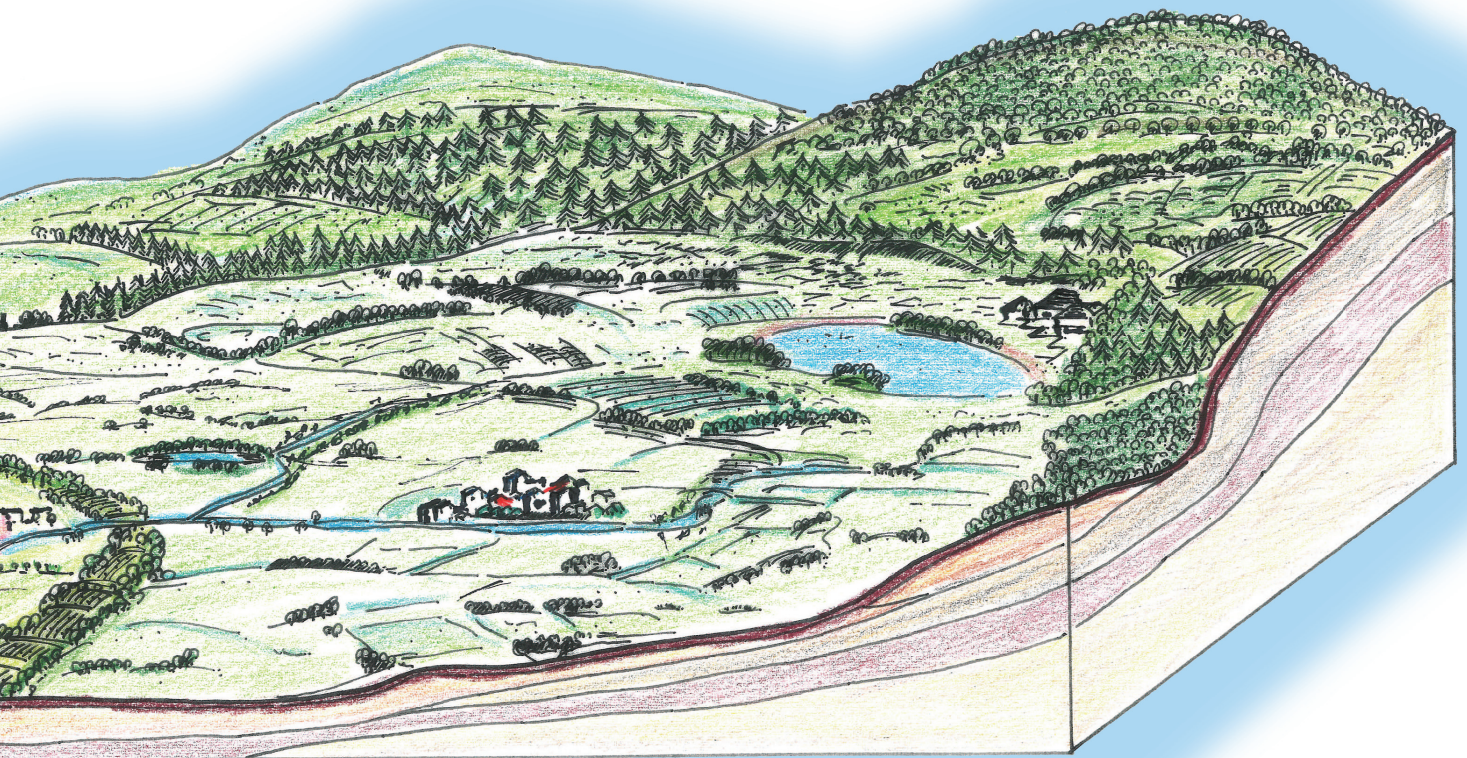


地域環境科学部

地域創成科学科

Dept. of Regional Regeneration Science

自然環境の恵みを活かし
人と自然が共生する豊かな暮らしと
持続可能な地域環境の創成を目指す



人物を畑に還す
東京農業大学

学科長からの メッセージ

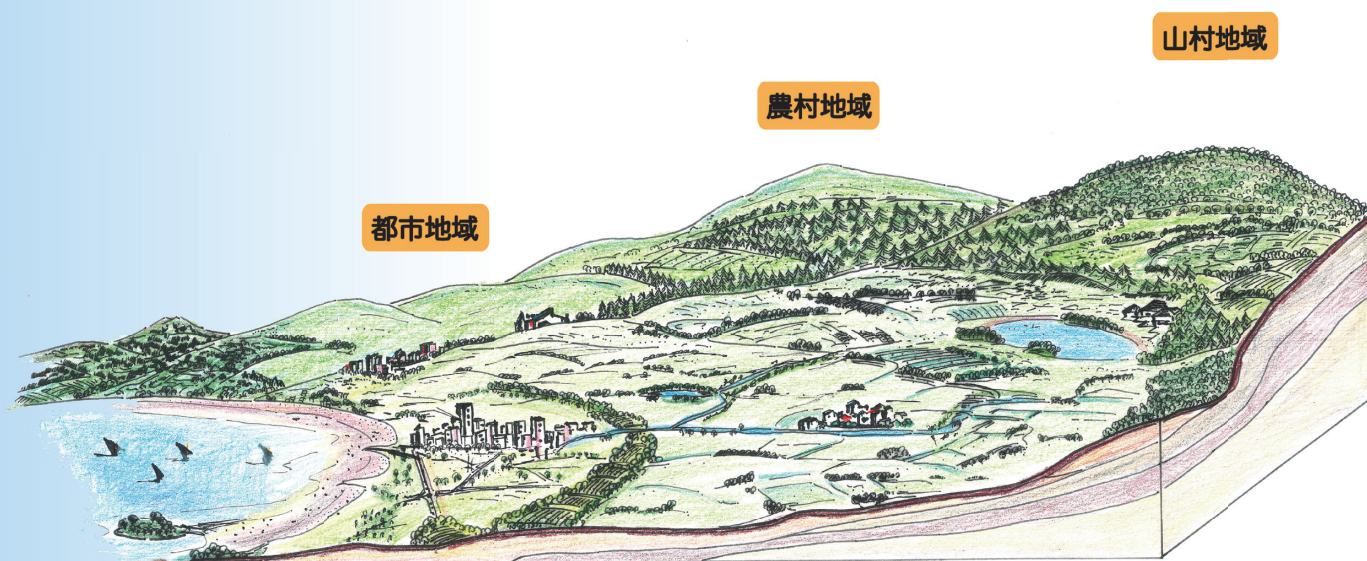
地域創成科学科 学科長
大学院地域創成科学専攻
専攻主任
武生 雅明

21世紀も四半世紀が過ぎた現在、温帯域の先進諸国では人口縮小社会への転換が急速に進行しています。わが国はその先頭を走り、地方の農山村では集落機能崩壊の危機に直面しています。農山村は、一次産業を担うだけでなく、水資源涵養・災害抑止機能や、生物多様性と生活文化多様性の保全、福祉・観光リクリエーション機能など多くの機能を担っており、人口縮小社会における農山村の新たな社会構造の構築は喫緊の課題となっています。

この課題に対して、私たちは農学分野で蓄積してきた知識と技術を結集し、ネイチャーポジティブな発想で取り組むべく、地域環境科学部の中に地域創成科学科を設立しました。豊かな地域社会の創成という1つの目標に向かって、いわゆる自然科学、社会科学、人文科学という学問の垣根を超え、多角的な視点から課題を解きほぐし、解決策を探究していきます。

地域創成科学科での学びでは、講義・実習による知識とスキルの習得だけでなく、実習や研究室ゼミでのグループディスカッション、全国各地で展開されている実践的研究への参加を通じて、正確な観察力、課題発見能力、多様な価値観の理解力、多角的で粘り強い思考力を養っていきます。

都市への一極集中という時代の流れに反逆し、豊かな地域への新たな潮流を作るために、志を同じくする仲間と共に泥臭く汗を流しましょう。



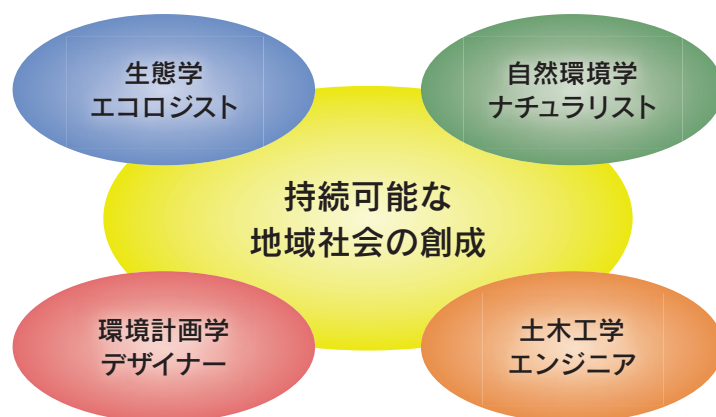
地域創成科学の目指すもの

社会的使命と役割・人材育成と歩み方

地域創成科学は、これから挑戦する新しい学問分野です。

今日の切実な気候変動に対する緩和と適応、生物多様性の保全、防災・減災、故郷の風景の復興、縮退する農村地域の再生、環境が経済を生み出すグリーン経済等、これらすべてが『地域創成科学』の扱う課題です。

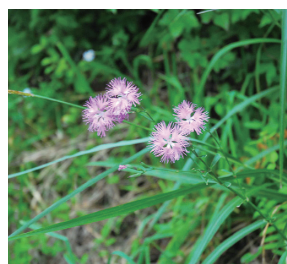
これらの課題解決に向けて、生態学(エコロジスト)、自然環境学(ナチュラリスト)、土木工学(エンジニア)、環境計画学(デザイナー)の4つの専門分野の視点から地域創成を科学します。



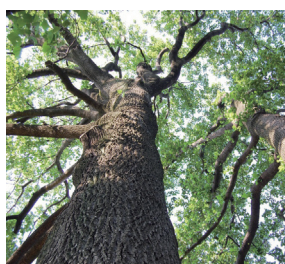
本学科が目指す人材育成

- ① 自然環境、生活環境および社会環境の関わりについて広い知識と豊かな感性を有する人材
- ② 観察力、論理的思考能力、高い倫理観を有し、フィールドにおける多様な課題の解決に向けて積極的に行動できる人材
- ③ 生物文化多様性や土地・社会資本の保全、地域振興等の観点から持続可能な地域の創成に貢献できる人材

——地域創成科学科では、こんなことが学べます。研究できます。——



植物・エコロジー



樹木・樹木医



生き物・ビオトープ



伝統知・農文化



森・環境保全



世界遺産・文化的景観



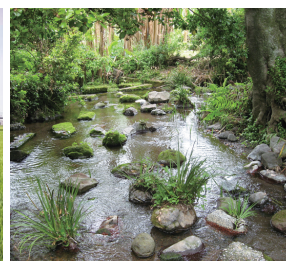
都市・再デザイン



里山・棚田保全



復興・防災・減災



流域・水環境

『経験と実践』から『知恵と技』を学び、

教育方針・カリキュラムポリシー

2分野・4研究室

地域創成科学科では、3つのステージで教育します。

- ファーストステージでは、地域環境を構成する生物、土、水、地形地質および文化や社会といった基本構成要素にかかる基礎科目を学びます。
- セカンドステージでは、生物多様性や生態系を考慮した土地利用方法、地域防災や農業基盤に関連する保全・管理技術、環境教育や地域マネジメント手法などの専門科目を学びます。
- サードステージでは、専門知識を活かし、持続可能な地域づくりを考究する実習・実験・演習及び卒業論文などの総合化科目を学びます。

自然再生分野

保全生態学研究室

地域環境保全学研究室

- ・自然環境の適切な保全・再生手法
- ・生物多様性を考慮した農業基盤の保全
- ・植物による環境修復・緑化技術
- ・伝統技術に基づく植栽管理技術
- ・植物・植生、動物・昆虫の生態調査
- ・GISによる地理空間情報技術

GISはGeographic Information Systemの略で「地理情報システム」

実験・実習・演習を柱としたカリキュラム体系 ※必修科目（一部内容が変わる場合があります）

		1 st Stage ファーストステージ			2 nd Stage セカンドステージ		
		1 年前期	1 年後期	2 年前期	2 年後期	3 年前期	
総合教育科目	全学共通	東京農業大学入門*					
		共通演習*					
		情報基礎（一）*	情報基礎（二）*	データサイエンス基礎（一）	データサイエンス基礎（二）		
		スポーツ・レクリエーション（一）	スポーツ・レクリエーション（二）				
		特別講義（一）（二）（三）（四）					
外国語科目	学部共通 全学共通	英語（一）*	英語（二）*	英語（三）*	英語（四）*	実用英語（三）	
		実用英語（一）	実用英語（二）				
		中国語（一）	中国語（二）				
		ドイツ語（一）	ドイツ語（二）				
学科教養科目・専門応用科目等	学部共通	哲学	科学の歴史	源流文化学	日本国憲法	現代社会と経済	
		生物学	文学概論	技術者倫理	地域と文化	群集生態学	
		化学	物理学	統計学	日本の森林文化論	芝生論	
		地学	景観論	きのこ学			
	自然再生分野	基礎植物学*	里山生態学概論*	保全生態学*	自然再生施工論*	植栽技術論	
				環境植物学*		樹木医学概論	
			野生動物と生息環境*	測量学*	景観生態学*	農域空間情報論*	
					地理情報システム論*	農域植生学	
	地域マネジメント分野	実用数物科学*	農学概論*	農域物質循環論*	野生動物資源の管理	農業昆虫学	
			施設材料学*		農域防災論*	地域環境計画学*	
		地域環境論*	農村・都市交流論*		農地保全学*	環境アセスメント論*	
					合意形成デザイン論*	農業基盤工学	
教育内容	基礎・基本 学問への動機づけ教育 学習の喜び				専門・応用 専門知識の解きほぐし教育 学問の楽しさ		

体制の教育研究

豊富な実習と演習

		3 rd Stage サードステージ				
3 年後期		4 年前期		4 年後期		
	実用英語（四）					
		海外農業農村開発学				
専攻実験・実習※	環境修復論	卒業論文演習（一）※	卒業論文※		卒業論文演習（二）※	卒業論文※
	土壌肥科学					
	作物栽培管理学					
	河川水文学					
	地域創成関連法規			農と健康		
	文化産業・観光計画学					
		総合化・展開 総合化の自信づけ教育 研究の達成感				

保全生態学研究室

地域の自然を適切に保全・再生することを目的として、生物の生理生態的特性や生活史、生物の進化と集団の維持メカニズム、生物間相互作用、植生の管理手法に関して生態学な観点から研究を行う。

地域の自然の仕組みを高い行動力と地道なフィールドワークによって解き明かす

高い生物多様性と豊かな生活文化を持つアジアを幅広く対象とし、熱帯から温帯さらには高山帯まで、地域に生育する動植物の分布パターン、気象・土壌・水など生育地の環境条件、環境に対応した生理生態的特性や生活史特性、遺伝的多様性や地域集団の遺伝的分化について研究していく。

自ら実践して学ぶ自然再生技術

地域の中に研究拠点を設け、長期に渡る学習研究生活を送る中で、地域の風土に育まれた生活・生業に関する伝統的な知恵と技術を実践的に学ぶ。そこで得た知識と自らの研究成果を踏まえ、地域における持続可能な産業の発展と生物多様性保全を両立させるための自然再生と植生管理技術を開発する。

キーワード

生物多様性、生物間相互作用、生活史戦略、環境適応、ファイトレメディエーション、環境緑化、植生管理

研究室活動の様子



北アルプス八方尾根での気象観測



八方尾根での繁殖フェノロジー観察



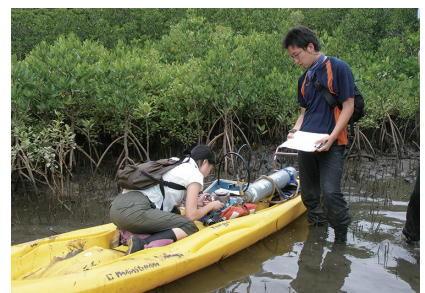
西表島でのマブシキの
夜の訪花昆虫調査



小谷村の放棄棚田の再開墾



植物によるカドミウムの吸収除去実験



マングローブ樹木の生理生態調査

主な卒業論文テーマ

- 季節的な訪花昆虫相の違いによるユキワリソウの繁殖成功の変化
- 北アルプス八方尾根の蛇紋岩地における地形による土壌と植物体中の重金属濃度の変化
- 地域在来種を利用したファイトレメディエーション
- 分布上限におけるアカガシの冬季の光合成特性
- 水田に生育する在来植物の消失要因—繁殖干渉という視点から—
- 外来植物間伐材の炭化利用

保全生態学研究室教員・出張講義テーマ



武生 雅明

たきゅう まさあき
教授 博士(理学)

出身地 大分県

略歴 千葉大学大学院自然科学研究科単位取得退学、(財)埼玉県生態系保護協会研究員、科学技術振興事業団科学技術特別研究員、科学技術振興事業団客員情報員、2013年4月より東京農業大学教授

担当科目 基礎植物学、里山生態学概論、群集生態学

専門分野 植物生態学

所属学会 日本生態学会、日本熱帯生態学会、植生学会

研究テーマ 生物の生活史と種間相互作用を考慮した生態系保全技術の確立

出張講義テーマ

1. 気候の季節性は森林生態系にどう影響するのか
2. 熱帯林の生物多様性の魅力と現状、および保全策
3. 里山における生物文化多様性保全



亀山 慶晃

かめやま よしあき
教授 博士(学術)

出身地 広島県

略歴 広島大学大学院国際協力研究科博士後期課程修了、北海道大学大学院地球環境科学研究院にて日本学術振興会特別研究員、博士研究員、短時間勤務職員、東京農業大学にて助教、准教授、2016年4月より同大学教授

担当科目 里山生態学概論、保全生態学

専門分野 植物生態学、集団遺伝学

所属学会 日本生態学会、日本植物学会、アメリカ植物学会

研究テーマ 植物個体群の維持機構と遺伝子流動

出張講義テーマ

1. 花粉媒介者を巡る種間競争—植物の開花季節と訪花昆虫
2. 種間交雑の生態学—雑種の形成とフィードバック
3. 栄養繁殖と有性繁殖—クローンの生態学



浅井 俊光

あさい としみつ
准教授 博士(造園学)

出身地 大分県

略歴 東京農業大学大学院農学研究科造園学専攻博士後期課程修了、東京農業大学助教、2016年4月より同大学准教授

担当科目 環境植物学、環境修復論

専門分野 環境緑化学

所属学会 日本造園学会、日本緑化工学会、土木学会

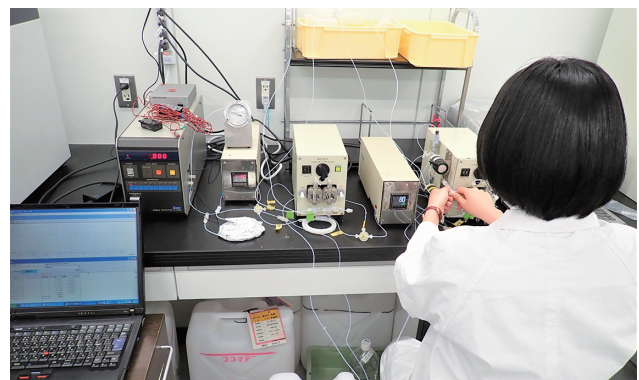
研究テーマ 植物による環境修復技術、環境緑化技術

出張講義テーマ

1. 植物による重金属・大気汚染物質の吸収・吸着除去について
2. 様々な環境圧と植物との関係について
3. 特殊環境の緑化技術について 農山村から都市域まで



群落の立地環境調査—湿原の地下水の採水



化学分析—植物葉に含まれる物質の無機分析

地域環境保全学研究室

現場から学ぶ地域環境保全の理解と洞察力の養成

人間の望ましい生活環境整備、すなわち地域環境保全と持続可能な生産基盤・生存環境の保全・創出を目的とし、開発行為が自然環境や生態系に与えるインパクトの評価と環境再生・修復の技術や対策を研究対象とする。机上ではなく、現場での実践活動により地域環境を把握・理解し、洞察する。

フィールド情報に根ざした動植物・景観の生態学的・地理学的調査研究

植物・植生、動物・昆虫など生物の観察、分布・生態調査をつうじて、地域内の自然環境と土地利用との関係における生物相や生態系を明らかにする。これら野外調査で得られたデータ(属性情報)は、GISなど地理空間情報技術を用いて包括的にとらえ、土地利用の空間配列パターンとプロセス、およびその機能的つながりを研究する。また、自然環境特性や生物の生息適地推定に基づく最適な土地利用計画の手法についても検討していく。

キーワード

野生動植物、生物の生息空間(ビオトープ)、植生景観、土地利用、GIS(地理情報システム)、リモートセンシング

研究室活動の様子



里山の植生調査と植物標本整理



ビオトープに生息する動物たち



玉原高原でのブナの実生観察



ニホンジカの食害調査(南アルプス)



環境保全林づくりの幼苗植栽



高山帯での植生復元活動(北アルプス)

主な卒業論文テーマ

- 土地利用における立地環境と植物群落の分布および植生景観配分
- 時代変遷や社会環境の変化に伴う地域景観の変貌と植物相、植生の分布比較
- 緑地の構造と動物・昆虫の個体群、群集
- 谷戸域に生息する両生類の環境選択
- 多時期のリモートセンシング画像を用いた景観変遷の解析
- 3D技術を用いた地形及び景観構造の解析

Lab. of Regional Environment Conservation

地域環境保全学研究室教員・出張講義テーマ



竹内 将俊

たけうち まさとし

教授 博士(応用昆虫学)

出身地 神奈川県

略歴 東京農業大学短期大学部および東京農業大学農学部卒業、千葉大学大学院園芸学研究科修士課程修了、都立高尾自然科学博物館非常勤学芸員を経て、2017年4月より現職

担当科目 野生動物と生息環境、野生動物資源の管理

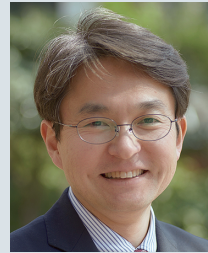
専門分野 昆虫生態学、環境動物学

所属学会 日本環境動物昆虫学会、都市有害生物管理学会

研究テーマ 動物・昆虫の生息環境、植物と昆虫の相互関係、陸生貝類・両生類の生態と保全

出張講義テーマ

1. 昆虫類の多様性、生息環境と再生
2. 谷戸域の両生類
3. 野生動物の調査、自然観察会



下嶋 聖

しもじま ひじり

准教授 博士(造園学)

出身地 神奈川県

略歴 東京農業大学大学院農学研究科博士後期課程修了 博士(造園学)東京情報大学助教を経て、2012年4月東京農業大学短期大学部環境緑地学科助教、2017年4月より現職

担当科目 農域空間情報論、地理情報システム論、測量学、景観生態学

専門分野 風景地計画学(自然公園)、環境情報学(GIS・リモートセンシング)

所属学会 日本造園学会、日本レジャー・レクリエーション学会、日本景観生態学会

研究テーマ 地理空間情報技術(GIS・リモートセンシング)を用いた環境解析

出張講義テーマ

1. 山岳環境保全の最前線(山岳地の自然再生とその技術)
2. ソーラークッカーを使ったエコッキング
3. 3Dプリンターを使った身近な環境解析



鈴木 康平

すずき こうへい

准教授 博士(農学)

出身地 埼玉県

略歴 筑波大学大学院生命環境科学研究科博士後期課程修了 博士(農学)、名古屋大学大学院環境学研究科にて研究員、日本学術振興会特別研究員、一般財団法人自然環境研究センターにて研究員、筑波大学生命環境系にて研究員を経て2023年4月より現職

担当科目 農域植生学、景観生態学、農域空間情報論

専門分野 植生学

所属学会 植生学会、沙漠学会、国際植生学会

研究テーマ 植物群落の分類とシステム化、植生・植生景観の管理と保全

出張講義テーマ

1. 日本の植生
2. 世界の植生
3. モンゴルの植生



調査の様子(植生調査)



調査の発表

地域環境工学研究室

持続可能な循環型社会の創出を目指し、土や水の基本的性質や力学に関する知識を活用して、頻発する自然災害、社会資本ストックの維持管理費の増大、農業によって排出される環境負荷の増大といった現在の地域社会が抱える課題を解決する。

防災に強い地域づくり

東日本大震災以降、持続可能な社会を構築するための地域防災力強化が喫緊の課題とされている。モデル計算による自然災害のメカニズムの解明や、災害危険領域の設定と地域防災体制の提案により、自然災害に強い地域づくりをサポートする。

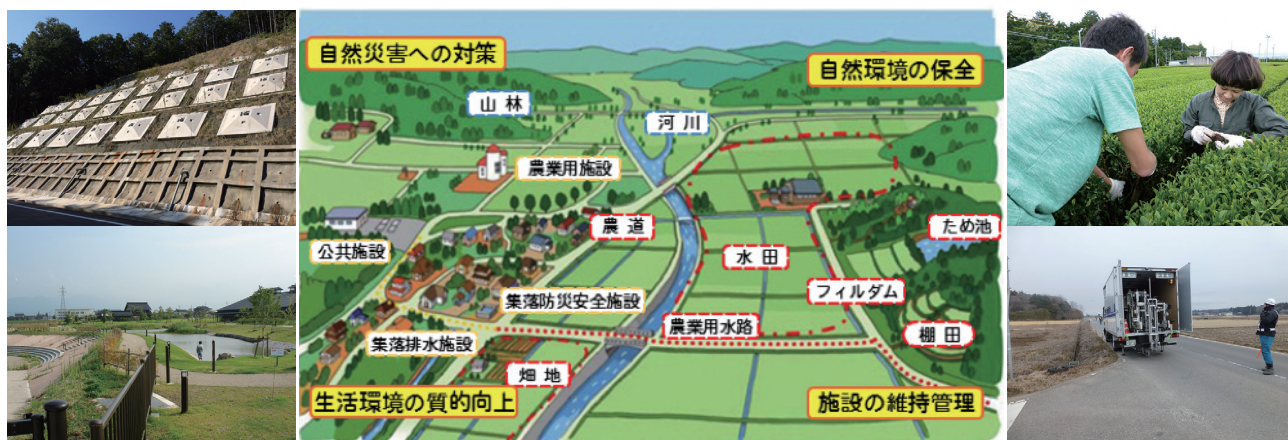
循環型社会の創出に向けた農村の基盤整備

農道、水路やダムなど農村に存在する様々な施設が常に高い機能を発揮し続けるように、施設を設計、整備する技術を探求する。また、農業から発生する環境負荷をできるだけ小さくするために、適切な保守・管理による施設の長寿命化方法の検討、施設の機能を素早く低コストで診断する新技術の開発、バイオマス利用を中心とした省エネルギー型農法の検証などに取り組む。

キーワード

農業基盤施設、地域防災、ストックマネジメント（施設の維持管理）、農地保全、バイオリサイクル

研究室活動の様子



左上：環境に配慮した地すべり対策
左下：洪水調整機能をもつ農村公園

図：農村における様々な農業施設
（農林水産省 HP より転載加工）

右上：伝統農法を続ける茶園での土壌調査
右下：非破壊で農道の健全度を素早く判断

主な卒業論文テーマ

- 数値解析による水・土砂災害の復元計画とそれに基づく防災・減災対策の提案
- 各種防災ハザードマップの比較検討および評価に関する研究
- 道路舗装の理論的設計法、維持管理方法、非破壊による健全度評価法の検討
- 小水力発電のポテンシャル評価と用水管理法の検討
- 未利用資源を肥料や土壌改良資材として利活用する方法の開発
- 農業・園芸・都市緑化の効率化に向けた土壌環境データの活用

Lab. of Regional Environment Engineering

地域環境工学研究室教員・出張講義テーマ



竹内 康
たけうち やすし
教授 博士(工学)

出身地 富山県

略歴 東京農業大学大学院農学研究科修士課程修了、長岡技術科学大学にて博士(工学)を取得。鹿島道路(株)技術研究所研究員、東京農業大学助手、同講師、同助教授を経て2006年4月より東京農業大学教授

担当科目 施設材料学、農業基盤工学

専門分野 農業造構学、道路工学

所属学会 農業農村工学会、土木学会、地盤工学会

研究テーマ 農業基盤施設の合理的な維持管理方法

出張講義テーマ

1. 農業生産と農業水利施設のかかわりについて
2. 東京オリンピックと熱環境と道路舗装
3. 歴史から学ぶ道路網の地域振興に果たす役割



本田 尚正
ほんだ なおまさ
教授 博士(工学)

出身地 福岡県

略歴 立命館大学大学院理工学研究科博士課程総合理工学専攻修了、大阪府土木職員、大阪府立高専、鳥取大学農学部、茨城大学理学部を経て、2014年4月より東京農業大学地域環境科学部教授

担当科目 実用数物科学、測量学、農域防災論、河川水文学、技術者倫理

専門分野 土砂水理学、河川工学、防災工学

所属学会 土木学会、砂防学会、日本技術士会

研究テーマ 自然災害に対する地域防災機能の評価と強化

出張講義テーマ

1. 研究紹介：水・土砂災害発生のメカニズムと防災対策
2. 環境教育：くらしと川の関わりーかわ・まち・ひとづくりー
3. 防災教育：備えあればうれいなしー自然災害から身を守るためにー



藤川 智紀
ふじかわ とものり
教授 博士(農学)

出身地 兵庫県

略歴 東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了(博士(農学))、独立行政法人農村工学研究所特別研究員などを経て、2017年4月より現職

担当科目 土と水の科学、農域物質循環論、農地保全学

専門分野 農地工学、土壌物理学

所属学会 農業農村工学会、日本土壌肥料学会、農村計画学会

研究テーマ 有機物の利用による環境負荷低減と農村活性化

出張講義テーマ

1. 農業は環境に悪い影響を与えるのか?
2. 農業におけるバイオマスの利活用
3. 農地造成の工夫あれこれ なぜ日本の水田は四角いのか?



金子 貴徳
かねこ たかのり
助手 博士(学術)

出身地 神奈川県

略歴 東京農業大学大学院農学研究科博士課程修了(博士(学術))、博士研究員などを経て、2025年4月より現職

専門分野 土壌動物学、土壌肥料学

所属学会 農業農村工学会、土壌肥料学会、土壌動物学会

研究テーマ 土壌動物を用いた環境保全型農業への利用

出張講義テーマ

土壌動物の働きについて

地域デザイン学研究室

自然と共にデザインする“Design with Nature”を重要なテーマとし、
その地域にちょうど“ぴったり”の美しい環境計画学の実践

本研究室は環境共生、地域共生が志向される今、Sustainabilityの環境の創造、保全、再生のデザイン研究を志す。都市や農山村でのフィールド活動を通じて地域の環境問題や歴史文化的価値のある等の資源を発見し（See）、その課題解決に向けた環境計画、地域資源を活かした環境デザインを描き（Plan）、そのプランを実現するための地域で行動する（Do）、SPDによる地域デザイン活動を通じて知識とスキルを習得し、故郷の風景創成、地域住民とのワークショップによるコミュニティデザイン等に取り組む。

国際交流、都市農村交流、流域連携等の「交流・地域連携」による地域デザイン

森・里・川・海の自然環境の恵みを持続利用し、国際交流、都市農村交流、流域連携等の「交流・地域連携」を通じて、文化、伝統技術、知恵を継承した、人と自然が共生する豊かな暮らしと地域らしい生業を導く「地域デザイン」の方法論と実践的研究を探究する。具体的には、地域のコミュニティ創造や自然と共存するマネジメント等のあり方、世界遺産・世界農業遺産・自然公園等の自然環境保全の施策や環境教育プログラムなどの研究を行う。

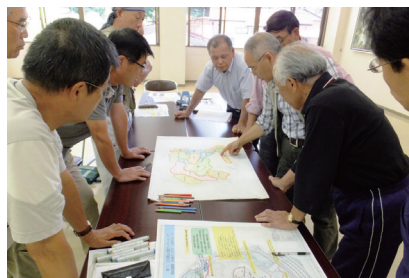
キーワード

環境デザイン、グリーンインフラ計画、まちづくり、環境政策、インタープリテーション、環境教育、観光レクリエーション計画、世界自然遺産、世界農業遺産、里山と文化的景観

研究室活動の様子



草原学習の様子（阿蘇くじゅう国立公園）



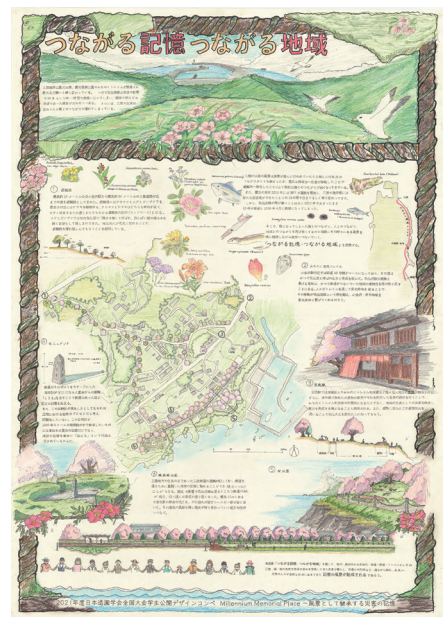
行政、専門家、地域住民等の連携による
里山の保全再生計画（福島県鮫川村）



持続可能な地域づくりの取り組み調査
（千葉県いすみ市）



地域産業の構造と取り組みに関する調査
（藍産業、徳島県）



「つながる記憶・つながる地域」
（日本造園学会学生コンペ）

主な卒業論文テーマ

- 総合的な学習の時間における里山学習の教育効果に関する研究—成城三丁目緑地を事例に—
- 地域住民が感じる街路樹の価値認識に関する基礎的研究
- 地域産業の構造とその継続要因や政策に関する研究
- 地域資源の持続可能な利用とその取り組みに関わる主体の機能や役割に関する研究
- 自然公園、世界遺産、世界農業遺産、ジオパーク等の保護地域における持続的観光
- 環境教育プログラム開発とその効果に関する研究

Lab. of Regional Planning & Design

地域デザイン学研究室教員・出張講義テーマ



入江 彰昭

いりえ てるあき
教授 博士(造園学)

出身地 茨城県

略歴 東京農業大学大学院農学研究科修士課程(造園学)修了、中央工学校土木工学科専任講師、東京農業大学短期大学部環境緑地学科助手、講師、准教授を経て、2017年4月より現職、デンマークオーフス大学客員研究員依命留学(2018年4~8月)

担当科目 地域環境計画学、合意形成デザイン論

専門分野 環境計画学、都市農村計画学

所属学会 日本造園学会、日本都市計画学会、農村計画学会

研究テーマ ヒートアイランド緩和に向けた環境計画の提案、地域の自然環境・歴史文化を活かす地域再生計画の提案

出張講義テーマ

1. 環境共生時代の環境デザイン
2. 市民協働によるランドスケープマネジメント
3. 大学と地域との連携による地域再生



町田 怜子

まちだ れいこ
教授 博士(造園学)

出身地 神奈川県

略歴 東京農業大学農学研究科博士課程(造園学)修了、スイスチューリッヒ連邦工科大学アカデミックゲスト、財団法人自然環境研究センター研究員、2013年9月より東京農業大学助教、2017年4月より現職

担当科目 環境アセスメント論、文化産業・観光計画学

専門分野 観光計画学、風景計画学、自然環境保全学

所属学会 地域デザイン学会、日本野外教育学会、日本観光研究学会

研究テーマ 多様な主体との連携による自然・文化資源を活かした地域マネジメント

出張講義テーマ

1. 人と自然とのかかわりから考える環境問題
2. 農を活用した共に学びあうインクルーシブ教育
3. 世界遺産の保護制度と持続可能な観光利用



茂木 もも子

もぎ ももこ
准教授 博士(農学)

出身地 東京都

略歴 筑波大学生命環境科学研究科博士後期課程(農学)修了、(一社)日本木質バイオマスエネルギー協会調査員、東京家政大学家政学部環境教育学科期限付助教、(一財)林業経済研究所研究員、2022年4月より現職

担当科目 地域環境政策学、農村・都市交流論、環境教育学

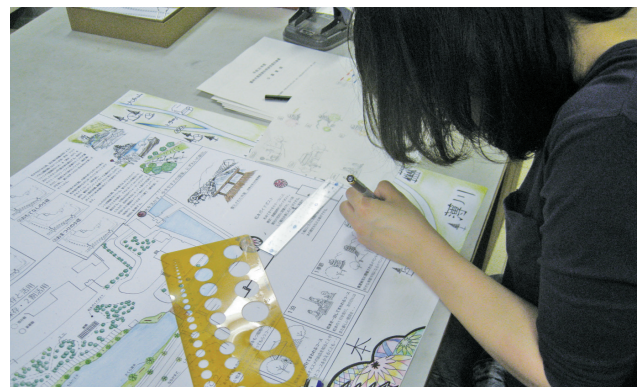
専門分野 森林資源経済学、森林・林業政策学、環境教育学

所属学会 日本森林学会、林業経済学会、日本環境教育学会

研究テーマ 農山村と都市の交流構造、木材流通と情報の非対称性、環境教育プログラムの開発と評価

出張講義テーマ

1. 森林の多面的機能、林業・木材産業
2. 環境教育プログラム開発と評価
3. 土壌教育(土壌の生成・分類、機能、暮らしとの繋がり)



学生まちづくりデザインコンペ(設計競技)



世界農業遺産地域における小学校での環境学習

学部教養分野 外国語研究室

地域環境科学部はグローバルな問題扱うことが多く、外国語の習得は不可欠である。そのため当研究室では、英語を中心とした研究と教育を行なっている。



岡田 大樹

おかだ ひろき

助教 博士(文学)

出身地 神奈川県

略歴 専修大学大学院文学研究科博士課程修了。
聖マリアンナ医科大学非常勤講師、専修大学文学部助教、
2023年4月より東京農業大学助教

担当科目 英語、文学概論

専門分野 アメリカ文学、ゴシック小説、ウィリアム・フォークナー

所属学会 日本アメリカ文学会、多民族研究学会、日本ウィリアム・フォークナー協会など

研究テーマ フォークナーのモンタージュ技法による作品改稿、
ゴシック小説から各ジャンル小説への史的展開

出張講義テーマ

1. 英国式庭園とゴシック小説の誕生
2. 都市化、進化論そして分身の物語
3. 米国南部小説にみる奴隷制の残響

卒業生の活躍の場

地域創成科学科の卒業生は、習得した専門分野をいかして、
幅広い分野に就職しています。

主な就職先は、公務員、研究所、空間・建設・総合コンサルタント、
農業工学・土木・測量、建設業、製造・食料品、技術営業、SEプログラマー、
農林水産業、造園・種苗、幅広い職種となっています。

卒業後の主な進路

【公務員】

農林水産省、国土交通省、環境省、経済産業省、厚生労働省、東京国税局、警視庁、茨城県庁、埼玉県庁、神奈川県庁、千葉県庁、富山県庁、山形県庁、岡山市役所、川崎市役所、前橋市役所、相模原市役所、厚木市役所、鎌倉市役所、東京都特別区

【研究所】

国立研究開発法人土木研究所、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

【空間・総合コンサルタント】

アジア航測株式会社、国際航業株式会社、株式会社オオバ

【農業工学・環境・土木・測量】

独立行政法人水資源機構、ヤンマーアグリジャパン株式会社、エバークリーン株式会社、イビデングリーンテック株式会社、世紀東急工業株式会社、西武造園株式会社、箱根植木株式会社、土地改良事業団体連合会、株式会社NIPPO、ニチレキ株式会社、日本道路株式会社

【食品・農林水産業】

JA、三菱食品株式会社、東北日本ハム株式会社

【旅客・観光業】

小田急電鉄株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、株式会社星野リゾート・マネジメント

【団体】

一般財団法人公園財団、東京中央農業組合、独立行政法人水資源機構、長野県教育委員会

【進学】

東京農業大学大学院地域環境科学研究科地域創成学専攻、東京農業大学内他専攻、他大学大学院

地域創成科学科で取得できる資格

地域創成科学科では、土木、生態、環境を横断的に学び、
教員と学生とのマンツーマン指導による技術、技能の習得により、
地域づくりに貢献できる多くの資格を取得できます

資 格	内 容	取得方法
 高等学校教諭一種農業	教育職員免許法に基づく高等学校の資格免許	所定の科目を履修・単位取得し、卒業すれば取得可能
 学 芸 員	歴史・芸術・自然科学等の博物館で専門職員になるための資格	所定の科目を履修・単位取得し、卒業すれば取得可能
 司 書	公共の図書館等の専門職員になるための資格	所定の科目を履修・単位取得し、卒業すれば取得可能
 測量士補	測量に従事する測量士の助手的役割を果たす。建築・建設・土木の企業で活用できる資格	所定の科目を履修・単位取得し、卒業すれば取得可能
 登録ランドスケープアーキテクト (RLA) 登録ランドスケープアーキテクト補 (RLA補)	自然と共生し、美しく緑豊かな環境を実現する仕事を実行できる資格	RLAは卒業後3年以上の実務経験で受験可能 RLA補は、学科で所定の科目を履修、単位を取得し卒業すれば取得 (受験) できる資格
 2級土木施工管理技士 2級造園施工管理技士 2級ビオトープ計画管理士 2級ビオトープ施工管理士 2級・3級造園技能士	土木工事に従事する施工管理技術者	在学中に学科試験の受験可能。卒業後1年以上の実務経験で実地試験の受験可能
	造園工事に従事する施工管理技術者	
	地域の野生の生きものたちが生息・生育する空間を計画・施工する技術者	在学中に受験可能。試験科目の一部免除が認められる
	地域の環境整備、公共緑地工事等に必要な高い技能をもった技術者	在学中に受験可能
 自然再生士補	自然再生に必要な知識を有する自然再生の推進者	所定の科目を履修・単位取得し、卒業すれば取得可能
 樹木医補	樹木の保護管理、樹勢回復、治療等に関する専門家で、環境緑化全般の技術者として自然の緑を守る仕事に活かせる資格	所定の科目を履修・単位取得し、卒業すれば取得可能

キャリアデザインを磨く資格取得に向けての支援教育

地域創成科学科は、次のような人を求めています

- (1) 地域づくりに強い好奇心・関心を持っており、それに関連する専門知識や技術を修得するための基礎的学力を有する者
- (2) 持続可能な地域づくりに向けて、広い視野を持ち、他者と協力して積極的に行動できる者

地域創成科学科の入試情報

*出願の際には本学ホームページから各制度の募集要項を必ずご確認ください

公募型 一般学校推薦型選抜

出願は専願に限ります。合格した場合入学することを前提としますので、本学の他学科または他大学の併願はできません。

自己推薦型

- ①キャリアデザイン総合型選抜
- ②高校で学んだ実践スキル総合型選抜(全国農業高等学校長協会会員の高等学校限定)
- ③東京農大ファミリー総合型選抜(東京農大卒業生の子弟・子女限定)

大学入学共通テスト利用選抜

- ①大学入学共通テスト利用選抜(前期):2科目型・3科目型・4科目型
 - ②大学入学共通テスト利用選抜(後期):3科目型
- 「大学入学共通テスト」において各学科が指定する科目を受験した結果のみで合否を判定されます。東京農大独自の二次試験や面接は実施しません。
 - 受験科目の指定科目さえ受験していれば、併願に制限はありません。全学部異なる学科の併願、同じ学科の4科目型・3科目型・2科目型を併願することも可能です。(学科により指定科目が異なるので注意してください)
 - 一般選抜A日程及びB日程との併願も可能です。
 - 前期選抜を出願した人であっても後期選抜を出願することが可能です。また、後期選抜のみを出願することも可能です。

一般選抜

①A日程

- 受験日自由選択:試験は3日間。全学部全学科とも3日間のうちどの日でも受験可能。
- 複数日複数学科受験可:同じ学科もしくは異なる学科を最大3日間受験可能。
- 学部学科併願可:1日の受験で複数の学部・学科を併願可能。

②B日程

- 学部学科併願可:1日の受験で複数の学部・学科を併願可能。

一般選抜 選択科目(地域創成科学科)

指定 英語 英語は筆記試験のみ。英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲおよび倫理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを出題範囲とする。

選択Ⅰ(1科目選択) ①国語(古文・漢文を除く) ②数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B(数学Bは数列を出題範囲とする)

選択Ⅱ(1科目選択) ①生物・生物基礎 ②化学・化学基礎 ③物理・物理基礎 ④歴史総合・日本史探求

⑤地理総合・地理探求 ⑥歴史総合・世界史探求 ⑦公共・政治・経済

出願手続き

全ての入学試験はWeb出願です。

詳しくは以下をご覧ください。

Web出願・募集要項



入試Q&A



所在・問い合わせ先

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1 東京農業大学

- ▶交通アクセス 小田急線 経堂駅下車(徒歩 約15分)、千歳船橋駅下車(徒歩 約15分)
東急田園都市線 用賀駅下車(徒歩約20分、バス約10分)
- ▶入学センター TEL 03-5477-2226 FAX 03-5477-2615 Mail nyushi@nodai.ac.jp
- ▶学科HPアドレス http://www.nodai.ac.jp/academics/reg/regi_innova/



地域創成科学科 QRコード

